

英語コーパス学会 Newsletter No. 39

Nov. 16, 2002

■会長: 今井 光規
■事務局: 〒770-8502 徳島市南常三島町1-1 徳島大学総合科学部 中村純作研究室
■TEL: 088-656-7129 ■郵便振替口座: 00940-5-250586 (英語コーパス学会)
■URL: <http://muse.doshisha.ac.jp/JAECS/index.html> ■E-mail: jun@ias.tokushima-u.ac.jp

JAECS
Japan Association for English-Corpus Studies

1. 第 20 回大会報告

英語コーパス学会第 20 回大会は、10 月 5 日(土)、6 日(日)の両日、名古屋大学国際開発研究科で開催されました。学会創立 10 周年を記念する大会として、準備に半年以上、2 度にわたる大会準備のための会議を持ち、「わが国のコーパス言語学の成果と展望」という大会テーマのもとで開催でした。当日は天候にも恵まれ、事務局の調べでは会員の参加者 102 名、新入会員 11 名、当日会員 34 名、賛助会員 1 名の合計 148 名の出席がありました。

初めての 2 日にわたる開催でしたが、恒例になっております午前中のワークショップも 2 日にわたり行なわれました。「正規表現によるテキスト検索」を取り上げ、初心者むけの「基礎編」と経験者を対象にした「応用編」を開講し、講師には大名力先生(名古屋大学)をお願いしました。Web 上で正規表現の初歩から応用までの実習を行い、2 日とも 50 名近くの参加者があり、分りやすく、まとまった内容だったと好評を得ました。

10 月 5 日の午後の大会では、今井光規会長(摂南大学)の挨拶の後、学会創立 10 周年を記念して制定された JAECS 学会賞の発表がありました。選考委員会委員長の赤野一郎先生(京都外国語大学)より選考経過の説明と、今年度の JAECS 学会賞を Toshio Saito, Junsaku Nakamura and Shunji Yamazaki (eds.) *English Corpus Linguistics in Japan* (Amsterdam, Rodopi, 2002)を編集した 3 名の編者に贈呈する旨の報告をいただき、会長より編者を代表して齊藤俊雄先生(大東文化大学)に賞状が贈られました。なお、今年度の奨励賞には該当者がいませんでした。

研究発表は従来のコーパス言語学中心のものと、学習者コーパスや英語教育への応用に関する 2 つの平行セッションを設けました。第 1 室では、松野和子さん(名古屋大学大学院生)の「アメリカ英語における国名の使用頻度に基づく『認知的世界地図』構築の試み」、家口美智子先生(摂南大学)、家入葉子先生(京都大学)、岡部浩子さん(神戸市外国語大学大学院生)による共同研究「アカデミックスピーカーの発話語数のジェンダー差 — Corpus of Spoken Professional American-English の分

析から—」、田中泉さん(ランカスター大学共同研究員)の「文の直接構成素レベルでの解析済みコーパスの比較」と、高見敏子先生(北海道大学)の「文体差に関わる語彙の特定 — Bank of English の『大衆紙語』と『高級紙語』の形容詞—」の 4 件の発表がありました。

「学習者コーパスとコーパスの英語教育への応用」を中心とした研究発表第 2 室でも、金子朝子先生(昭和女子大学)の「国際学習者コーパス ICLE/LINDSEI 最新の動向」、鈴木千鶴子先生(長崎純心大学)、吉原将太先生(同)、渡辺洋子先生(同)の共同研究「英語学習者コーパス分析法の開発から電子掲示板の改良へ」、小林多佳子先生(昭和女子大学)の「“Maybe,” “Perhaps,” “Probably” は日本人英語学習者の書き言葉でどのように使用されているか — 学習者コーパスを利用したアプローチ」、野口ジュディー先生(武庫川女子大学)の「専門英語教育におけるミニコーポラの有効性」と題した 4 件の発表が行われました。

どちらのセッションでも、様々なコーパスを独自の切り口で分析したユニークな研究が見られ、熱心な討論が展開しました。特に、学習者コーパスを中心としたセッションは、初めての試みでもあり、多くの会員にご参加いただきました。今後とも継続的にこのようなセッションをプログラムの中に組み込むことができればと思っております。

創立 20 周年ということで、大会テーマに沿って研究と教育に関連した 2 つのシンポジウムが開けられました。まず、初日の最後のプログラム「日本における英語コーパス言語学の現状と展望」と題したシンポジウムでは赤野一郎先生(京都外国語大学)にコオディネーターをお願いしました。語彙、構文、テキスト、英語史、辞書、英語教育の 6 つの領域について、それぞれ、司会の赤野先生、深谷輝彦先生(椋山女学園大学)、田畑智司先生(大阪大学)、西村秀夫先生(山口大学)、井上永幸先生(徳島大学)、朝尾幸次郎先生(東海大学)に講師をお願いし、今日に至るわが国のコーパス言語学の主要な成果を概観し、コーパスが英語研究に如何に貢献した

かを検証するとともに、今後の方向について議論していただきました。

「コーパスを如何に効果的に教育に利用するか」についてのシンポジウムは 2 日目の午前に行われました。「コーパスを利用した英語教育と英語・英文学研究指導 —実践報告と今後の可能性—」と題したこのシンポジウムは八木克正先生(関西学院大学)をコオディネーターに、講師に投野由紀夫先生(明海大学)、梅咲敦子先生(帝塚山大学)、大門正幸先生(中部大学)、石川慎一郎先生(広島国際大学)をお願いし、「英語教育」、「英語研究(共時的視点から)」、「英語研究(通時的視点から)」、「文学研究」の 4 つの視点から、コーパスの果たす役割やその可能性を議論していただきました。参加者からは、我々の日頃の授業実践に役立つ話であったとの感想が聞かれました。

創立 10 周年記念大会を締めくくる最後のプログラムとしては、オスロ大学の Stig Johansson 先生に“Corpus Linguistics: past, present, future”のタイトルでご講演をいただきました。LOB Corpus の編纂や、ICAME の創立者のお一人としての経験、さらに、*Longman Grammar of Spoken and Written English* やパラレルコーパス編纂の経験に基いたお話は非常に興味深い、有意義なものでした。講演は MD に録音してありますので、大会に参加できなかった会員にはお送りすることもできます。また、できれば JAECS10 周年記念論文集に収めたいと思っておりますので、ご期待下さい。

大会初日の夜、恒例の懇親会が開かれました。10 周年記念ということもあり、今回は 70 名近くの会員にご出席いただきました。滝沢直宏先生(名古屋大学)に司会をお願いし、会長挨拶、乾杯のあと、会員同士の交流と情報交換でおおいに盛り上がりました。この懇親会には特別講演講師の Johansson 先生もお招きし、ご挨拶をいただくとともに、席上、前日の運営委員会でお認め頂いた名誉会員証をお渡ししました。これで、7 名の名誉会員が誕生したことになります。最後に、来春、関西外国語大学短期大学部で開かれる第 21 回大会での再会を事務局よりお願いし、終了いたしました。

名古屋では 5 年ぶりの大会でしたが、無事、成功裏に終えることができました。これも、開催校である名古屋大学の杉浦正利先生を中心に、献身的に御協力頂いた滝沢直宏先生、大名力先生、大室剛志先生、山下淳子先生、木下徹先生のお力添えがあったことでした。また、素晴らしい会場を提供頂いた名古屋大学国際開発研究科、言語文化部にも、この紙上を借りて厚くお礼申し上げます。国際開発研究科の院生諸君にも、会場準備、受付などのお手伝いをいただきました。明るく、礼儀正しい院生諸君に

はとてもお世話になりました。重ねてお礼申し上げます。

2. 役員の停年に関する申し合わせについて

現在、役員に関して英語コーパス学会会則第 6 条に以下のような規定があります。

第 6 条 本会は次の役員をおく。役員の任期は 2 年とし、重任を妨げない。

会長	1 名
運営委員	若干名
監事	1 名
事務局長	1 名

この規則では、役員の年齢について触れていませんが、最近、高齢を理由に役員を辞退されたり、辞任をご希望な先生方もおりますので、学会として停年を制度化する必要があるのではないかということになりました。そこで、大会前日の 10 月 4 日午後 6 時より開かれた運営委員会において審議の結果、停年に関して以下のような申し合わせを決定しました。

< 役員の停年に関する申し合わせ >

役員には 69 歳を越えて委嘱されることはない。

3. 会誌『英語コーパス研究』第 10 号について

『英語コーパス研究』第 10 号 (2003) に多くのご投稿をいただき、ありがとうございました。第 19 回大会でご講演をいただいた Jan Aarts 先生からご寄稿をいただき、巻頭を飾る予定です。また、第 20 回大会で催された二つのシンポジウム「日本における英語コーパス言語学の現状と展望」、「コーパスを利用した英語教育と英語・英文学研究指導—実践報告と今後の可能性—」を活字化するべく、発表者から原稿を集めています。さらに、今回は全部で 8 本もの研究論文が寄せられ、現在査読を進めています。コーパスを利用した英語研究が盛んな証左と受け止めることができそうです。

また、第 20 回大会の前日に開かれた運営委員会で『英語コーパス研究』編集委員会内規が承認されました。この内規は、1. 組織と構成、2. 編集委員の任期、3. 投稿及び論文審査に関する方針から成り立っています。これにより、編集委員会の位置づけ、仕事、編集の方法を明確にすることができました。

最後に、今後とも会員のご協力を得ながら、より質の高い学会誌を編集したいと思っておりますので、引き続きご支援、ご指導を賜れば幸いに存じます。

4. 第 21 回大会の日程と研究発表募集について

2003 年度の春の大会(第 21 回大会)は 4 月 26 日(土)に関西外国語大学短期大学部中宮校舎(〒573-1001 大阪府枚方市中宮東之町 16-1 : 072-805-2801/2802 (代) URL: <http://www.kansaigaidai.ac.jp/>)で開催される運びとなっております。是非、今から出張の予定に組み込んで頂ければ幸いです。例年より少し遅めの日程ですが、会場校準備委員、会長、事務局ともどもお待ちしております。

大会での研究発表を次の要領で募集いたします。発表を希望される方は、下記の要領に従って、電子メールまたは郵便のいずれかで事務局にお申し込みください。

【応募締切】2002 年 12 月 20 日(金)

【提出物】題目と要旨(800~1200 字程度)

【内容】本学会にふさわしい、コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた研究

【採否決定】2003 年 1 月下旬旬(予定)

【その他】1. 時間 発表 25 分+質疑応答 5 分
(応募数により短くなることもある)
2. 資格 本学会会員であること。

ワークショップ、シンポジウム、記念講演会などを企画する予定です。アイデアをお寄せください。

なお、すでに秋の第 22 回大会は明海大学で開催されることに決定しております。会場校の先生方にはお世話になりますが、よろしく願いいたします。なお、詳しい日程などはその都度、Newsletter でお知らせいたします。

5. 東支部の活動について

JAECs Newsletter No.38 以降の東支部の活動と今後の予定についてご報告します。

「第 8 回コンピュータによる英語研究の講習会」名古屋大学で開催された第 20 回大会で特別講演をされたオスロ大学教授 Stig Johansson 先生を東支部でもお招きして、平成 14 年 10 月 10 日(木)午後 2 時 30 分から、大東文化大学板橋校舎で英語コーパス学会員、中高の英語教員、大学院生、大学生を対象に講演会を開催しました。タイトルは“The Impact of Corpora on the Study of English Grammar”

で、Longman Grammar of Spoken and Written English の共著者としての経験に基き、英文法研究におけるコーパスの果たす役割について、初学者にも分かりやすく丁寧にお話していただきました。

大東文化大学の招きで BNC 検索用のソフト BNCWeb を開発されたチューリッヒ大学の Sebastian Hoffmann 先生が来日されます。その機会を利用して、東支部にも先生をお招きし、第 9 回コンピュータ講習会を次の予定で計画しております。

【主催】英語コーパス学会東支部

【対象】英語コーパス学会会員、中高大教員、院生、大学生

【内容】BNCWeb を利用した BNC の検索

【講師】Sebastian Hoffmann (チューリッヒ大学講師)

【日時】平成 14 年 11 月 30 日(土) 14:30~16:00

【場所】東京都板橋区高島平 1-9-1

大東文化大学板橋校舎

【交通】東武東上線東武練馬駅よりスクールバス
都営三田線 西台駅より徒歩 10 分

【費用】参加費 500 円 (会員・学生は無料)

【定員】40 名

【申し込み・問い合わせ】

Fax: 大東文化大学英語学科
03-5399-7373 (山崎宛明記)

BNCWeb は廉価で CD-ROM 版が入手できますが、今回は、そのデモンストレーションを行っていただく予定です。

第 10 回コンピュータ講習会は、1 月に入って、やはり大東文化大学で開催する予定です。講師に投野由紀夫先生(明海大学)をお招きし、初心者を対象に WordSmith による検索についての講習を行います。詳細は未定ですが、確定次第、ML を通じてお知らせ致します。

東支部支部長 山崎俊次(大東文化大学)

6. 関西地区での BNCWeb の講習会について

上記、東支部での BNCWeb の講習会の後、講師の Sebastian Hoffmann 先生が関西を訪問することになっております。その機会を利用して、当学会と大阪大学言語文化部との共催で、関西地区でも BNCWeb の講習会を以下の要領で開催することになりました。

【内 容】BNCWeb を利用した BNC の検索
【講 師】Sebastian Hoffmann (チューリッヒ大学講師)
【日 時】平成 14 年 12 月 2 日 (月) 17:30 ~ 19:00
【場 所】豊中市待兼山町 1-8
大阪大学大学院言語文化研究科 2 階会議室
【交 通】(1) 新大阪駅から地下鉄御堂筋線で千里中央行に乗車、千里中央で下車。大阪モノレール大阪空港行きに乗車、柴原駅下車、進行方向に徒歩 10 分で大阪大学正門。
(2) 阪急梅田駅から宝塚線急行または特急に乗車、石橋駅下車。徒歩 15 分。
【費 用】参加費 500 円 (会員・学生は無料)
【定 員】40 名
【申し込み・問い合わせ】
豊中市待兼山町 1-8
大阪大学言語文化部
田畑智司

7. JAECS10 周年記念論文集について

学会創立 10 周年を記念する 3 つの事業が進行していましたが、10 周年記念大会は無事終了、学会賞も同大会で第 1 回の審査結果を発表することができました。残るは記念論文集の刊行ですが、9 月 30 日の原稿提出締め切りまでに 12 編が事務局に到着しました。23 名の執筆希望者の内、辞退された方や、英語のネイティブチェックが間に合わない等の事情で、提出された論文数が予想に反して少ない結果になりました。

そこで、質、量ともに当学会の 10 周年を記念するのにふさわしいものにするために、編集委員会で検討、運営委員会の上承を得た上で、執筆希望者で未提出の方に 10 月末日を限度として、再度投稿をお願いし、それまでに到着した原稿は受理することに致しました。最終的に受理した論文は 15 編となり、現在、会誌に準じた審査要領に従って審査を頂いております。

今後の予定としては、11 月末までに審査を終え、その結果を投稿者全員にフィードバックし、書きなおしを必要とするものについては、12 月末日までに再提出していただくことになっております。その後、編集委員会で章立て、掲載順序などを検討、実質的な編集作業を 2 月中に終え、再度、その結果を執筆者にフィードバックし、3 月末までにカメラレディの最終稿の提出をお願いする予定です。

来年秋の大会で刊行できればと考えておりますが、応募論文の数が少ないことに加えて、全てが

審査に合格するかどうかは現時点では不明です。さらに、出版社との交渉も残っております。当学会の 10 周年を記念するのにふさわしい論文集にするため、場合によっては、発行時期が遅れる可能性が無きにしもあらずという状況です。

8. 新入会員紹介

(個人の住所および電話番号は、オンライン版のニューズレターでは公開しておりません。郵送されるニューズレターをご覧ください。)

JAECS Newsletter No. 38 発行以降の新入会員の方は次の通りです (11 月 11 日現在、敬称略)

阿部 真理子 (上智大学非常勤)

E-mail:

石川 純子 (豊田工業高等専門学校非常勤)

E-mail:

石川 保茂 (京都外国語大学)

E-mail:

石部 尚登 (大阪大学言語文化研究科 S)

E-mail:

岩崎 克己 (広島大学情報メディア教育研究センター)

E-mail:

岡部 一光 ((株)両備システムズ)

E-mail:

倉本 充子

E-mail:

後藤 一章 (大阪大学大学院言語文化研究科 S)

E-mail:

小山 由紀江 (名古屋工業大学)

E-mail:

三省堂外国語辞書出版部 (賛助会員)

E-mail:

清水 伸一 (安城学園高等学校)

E-mail:

永浜 雅章 (創価大学)

E-mail:

中山 仁 (福島医科大学)

E-mail:

西尾 和展 (福岡雙葉学園)

E-mail:

新田 香織 (近畿大学)

590-0452 大阪府泉南郡熊取町山の手台 1-22-10

0724-052-5680 E-mail:

E-mail:

三原 京 (けい) (近畿大学)

E-mail:

三宅 忠明 (岡山県立大学)

E-mail:

村尾 玲美(れみ)(愛知教育大学S)

E-mail:

山添 孝夫(滋賀県立八幡商業高等学校)

E-mail:

9. 名簿訂正のお願い

会員名簿の記載内容に変更がございます。以下のようにご訂正下されば幸いです。事務局では、会員名簿のできる限り正確な管理に努めております。誤りや変更がございましたらご一報下さい。

E-mail アドレスの変更

秋山 孝信

浅原 京子

家入 葉子

磐崎 弘貞

衣笠 忠司

佐良木 昌

清水 眞

杉浦 千早

杉森 直樹

中村 洋一

なお、住所などの変更につきましては、第20回大会時にお申し出いただいた分も含めて、現在整理の最中です。ご迷惑をお掛けしますが、少々、お待ち下さい。

10. 事務局から

会費納入のお願い

2002年度会費(一般5,000円、学生4,000円)未納の方には郵便振替用紙を同封いたしますのでお納め下さい。郵便局発行の受領証をもって領収書に代えさせていただきます。

2001年度会費未納の方は、2002年度分と合わせてお納め下さい(振替用紙にその旨記しております)。行き違いになりました場合は、何とぞご容赦下さい。2年続けて会費未納の場合、JAECs Newsletter等の送付を中止させていただきます。

住所、所属等に変更や異動のある方は、必ず通信欄にお書き添え下さい。

その他

事務局では、シンポジウムやワークショップの企画・アイデアを随時募集しております。英語コーパス学会の大会プログラムとしてふさわしい内容のものがありましたら、どしどしご提案下さい。

FORUM 欄への投稿もお待ちしております。海外の学会・研究の動向、新刊・近刊図書の紹介、

身近なコーパス研究のエピソード等でも結構ですのでお寄せ下さい。

FORUM

新刊情報

徳島大学 中村 純作

E-mail:

本学会会員赤瀬川史郎氏(赤瀬川翻訳事務所)が共著者の一人である『コーパス言語学の技法 : テキスト処理入門』がこの10月に夏目書房より刊行された。続編の2巻から4巻はそれぞれ「インターネットの活用」「専用ソフトによる言語分析」「スクリプト言語による言語分析」を副題として、2003年中に出版される予定である。

コーパスを利用した言語研究の初期の時代には、磁気テープで提供されるBrownコーパスやLOBコーパスを大型コンピュータを使いながら処理する技術が要求されたものである。最近では、目を見張るような情報技術の進展に伴い1億語のコーパスをノートパソコンや、インターネット上で手軽に利用できる状況になり、コーパス検索用のソフトも数多く出まわり、いつでも、誰でもコーパスの利用が可能になってきた。計算機の仕組みやプログラム言語の知識がなくてもコーパスの利用が可能であるが、既成の枠組みを離れた独自の研究を進めようとする時には、やはり最低限のコンピュータ処理技術が必要とされる。このシリーズは、どうやらこのコンピュータによるテキスト処理の基礎技術をマスターした上で、その先にある言語研究を目指す研究者を対象としたものと思われる。

そのシリーズ第1弾として書かれた本書は、大きく4章に分かれ、それぞれのタイトルは「パソコン操作の基礎」「テキストファイルとは何か」「テキスト処理の基本」「テキスト処理の基本 : 一括処理」となっている。具体的には、エクスプローラやMS-DOSによるファイル操作、Project Gutenbergよりダウンロードしたテキストの秀丸エディターによる編集、正規表現やgrep検索、さらにMS-DOSコマンドによるバッチ処理、スクリプト言語Perlによるバッチ処理等を扱い、シリーズ第2弾以降の基礎となる項目を網羅している。

Windowsの時代にコマンド志向のMS-DOSに再び戻って基礎的な概念を学ぶことの意義は大きいし、アクティブウィンドウのスクリーンショットを

多用した説明も分かりやすい。A5 版 260 ページで、本体価格 2,800 円（税別）です。ご一読下さい。

ICAME 2002 に参加して

豊田高専 高橋薫

<http://ll.dge.toyota-ct.ac.jp/>

年に一度、国を変えて開催される ICAME の大会が、本年度は、5 月 22 日より 5 日間、スエーデン・ヨーテボリ(Göteborg)で行われた。集まってみると日本からは、本学会でもおなじみの中村純作先生（徳島大学）・山崎俊次先生（大東文化大学）ICLE の Board member でもある金子朝子先生（昭和女子大学）応用言語学を専門分野とする山下淳子先生（名古屋大学）そして私と、皆が英語コーパス学会の会員ということに相成った。

特筆すべきことは、言語学の分野であまりにも著名で、話す機会などは考えられないような学者の方々と文字通り膝を交えての交流が叶ったことにある。Geoffrey Leech, John Sinclair, Michael Halliday, Stig Johansson（敬称略）等など。

今大会のテーマである The Theory and Use of Corpora がコーパス研究を comprehensive に捉えるという印象を与えてか、基調講演もコーパス研究を一望するに有益なものばかりであった。

コーパス研究は語彙、語法を中心とする従来型の研究から、談話、話し言葉の分析、パラレルコーパス・学習者コーパスの構築・分析といった広がりを見せている。なかでも圧巻は、John DuBois 氏による The Santa Barbara Corpus of Spoken American English の音声データのデモにあった。こ

の音声データを今後どう分析するかは、大変興味深いところである。

さて、日本からの参加者もそれぞれの持ち味を生かしての発表となった。まず、山崎先生が演台に立ち 100 人余の参加者の前で The Study of Comparison in the WWC について概説した。分科会では金子先生が、Real Data and Teaching of Apology Strategies についての研究を報告し、中村先生は、The Structure of the BNC World Edition Based Upon the Distribution of -ly Manner Adverbs と題して、多変量解析の結果を示し言語学的解釈を加えた。

私は、BNC を用いた typology の研究成果を発表し、続いて山下先生が応用言語学的な分析手法とその成果を発表した。

5 日間という長丁場の国際会議がどういったものか全く見当が付かず飛行機に乗り込んだが、幸運にもビジネスクラスのシートをあてがってもらい、おかげでパソコンの電源消耗を気にせず、発表用の power point の下準備をすることができた。いざとなれば恥を忍んで頼んでみることをここでこっそりお勧めしたい。

また、発表日が 4 日目ということもあって、外出を控え、結果的には、十分準備が整ったの発表となり今更ながら胸をなでおろす。

ただ、贅沢だとも言えようが、趣向を凝らした数々の小パーティーが食欲をそそり、重量オーバーさえも気にしなくなってしまったことが悩みであった。とりわけボートで出かけた小島の要塞レストランでのディナーは、発表終了直後ということもあり、ワインのアルコールが心地よく体にまわり至福のひとつときでもあった。